

随想

フィリピン・ドゥテルテ大統領のこと

先進国の名に甘んじる者に夢輝く将来は待っているのか

（株）P P Q C 研究所 加藤 宏光

六月二十〜二十四日にわたって、フィリピン大学で特別講義を実施し、またフィリピン獣医師講習会での講義と実習をしてきた。著者が最初にフィリピンにかかわったのは、マルコス前大統領が失脚してハワイへ脱出したすぐあとであるから、今から三〇年も前のこととなる。

著者がP P Q C 研究所を設立して間もない頃、たまたま採卵養鶏を始めてみたいというフィリピン男性が個人商社を経営する日本人に連れられて訪ねてきた。今となっては明確に意識する業界人は少なくなつたが、かつての採卵養鶏技術はアメリカに由来するものが多く、アメリカへ最新情報を得るために出掛けていたものである。

最近のドゥテルテ大統領の評判はどう？

『支持率は八〇%を越えていますから、まだ高いですね！』彼が昨年大統領になつた時の支持率が七〇%程度で、I S 問題で戒厳令を敷くに至っている現状から当然それは低下しているものと考えていた著者は、以前を上回る支持率である、との話に驚いて確認した。

『八〇%?? 大統領になつた時が七〇%だったよね!? 今フィリピンであんなにもめているのに八〇%なの?』

『そうです。ダバオの騒動はアイシスが起こしているのです、フィリピンのイスラム過激派というよりシリアやイラクの過激なイスラムがダバオで騒いでいるのです。ドゥテルテ大統領は、これを抑えるため、フィリピンに戒厳令を敷いて沈静化しようとしています。国全体への働きかけとして、彼は税金制度を変えて（所得税を減税し、消費税を四〜五%上げる）、増えた税収分を貧しい人たちに回す政策

誘われて見学した、当時のフィリピン採卵養鶏スタイルは、著者が業界に携わつた当初（昭和三四〜三十五年時代）に匹敵したであろうか！

專業採卵養鶏場の多くは一、〇〇〇〜三、〇〇〇羽の規模で、一万羽も飼養していればもう中規模であり、一〇人以上のスタッフが働いている。それもそのはず、餌桶への配餌は配餌スコップに頼り、除糞もスコップによる前近代的な状態である。わが国の養鶏歴を考えれば、フィリピンのそれもわが国と同様の道をたどるのであろうし、その時点で採卵養鶏を始めたという人物はなかなか面白い。彼と共に道を歩めばあたかもタイムスリップをしたかのような体験を

できるかもしれない。著者の呼び掛けで、有志としてこの経済実験に参加して頂ける二名の業界の方が現れた。こうした流れの中で、フィリピンを訪問する運びとなつたのである。

『ドゥテルテが怖いですからね！』との答え。恐怖政治は勧められないが、この国の半分伝統と

をトップダウンで進めていますし、また大学を含めて国公立の学校では学費をすべて無償化するように、強力に政策を固めています。貧しい人たちは、彼の新しい政治にとても期待していますから。《国を富ませるために、まず教育のレベルを上げなければ》と考えています。また、前政権までの汚職体質を一掃するために、汚職議員や公務員はすべてクビにしてしましました。今、彼の周りにいるのは、汚職のにおいがまったくしない人たちです』

この話を聞いて、改めてこの国が目指している将来に輝く夢があることを実感した。さらに、今回の訪問で《街がきれいになつていること》にも気付いた。これまで街角のあちらこちらに捨てられていた紙くずやゴミの量が明らかに減つている。このことを尋ねると、

『ドゥテルテが怖いですからね！』との答え。恐怖政治は勧められないが、この国の半分伝統と

なっているさまざまな汚点を消し去るためには、今彼のような強権政治は必要なのかもしれない。

ちなみに、今回の臨床獣医師に対する講習・実習は参加者にポイントが与えられる。学会に参加すれば一ポイント、今回のような実習を経験すれば三ポイントといった具合である。これらのポイントが年間四六ポイントに達しない場合、獣医師の資格が失われるとのことである。

これらのポイントによる資格者の能力検定は、学校教員や国家試験で認定されるすべての資格保有者に対して課せられたもので、資格検定が毎年厳しく行われているとのこと。いったん資格を取れば、無為条件で死ぬまで有効、というわが国よりよほど進んでいると感心させられる。

先進国の名に甘んじて、さしたる努力をしていない日本の若者に、果たしてバラ色の将来が待っているのでしょうか？

先進国の名に甘んじて、さしたる努力をしていない日本の若者に、果たしてバラ色の将来が待っているのでしょうか？